

# カラーで蘇った昭和 40 年 NHK 紅白歌合戦

神山隆彦

## ◆きっかけ◆

それは今年 5 月末、NHK からの 1 本の電話から始まった。

NHK の音楽倉庫で見慣れぬ巨大 VTR テープ 3 巻が見つかり、局内では再生不可能とのこと。テープの入った箱には「昭和 40 年 第 16 回 NHK 紅白歌合戦」と書いてあり何とか再生ができないものかとの依頼であった。

詳細を聞くとそれは“2 インチ”オープンリール型ビデオテープであることがわかった。昭和 30 年代前半に登場し昭和 50 年代まで放送局で活躍していた番組収録用 VTR の規格である。その後 1 インチやベータカム等にとって代われ、現在では部品も入手できないことから、すでに国内には 1 台も 2 インチ VTR は残っていない。

弊社では日頃からアーカイブ事業に力を入れており、2 インチをはじめ、1 インチ、1/2 インチ、1/4 インチ、3/4 インチ (U マチック)、ならびにベータ・VHS 以前のカセット型 VTR の再生、デジタル化を可能としている。

そのような経緯から、今回 NHK アーカイブ担当の秋田氏から電話をいただいたのであった。

さっそく渋谷の NHK 放送センターに赴き、3 巻のテープとのご対面となった。

## ◆2 インチテープ～私の生まれた年◆

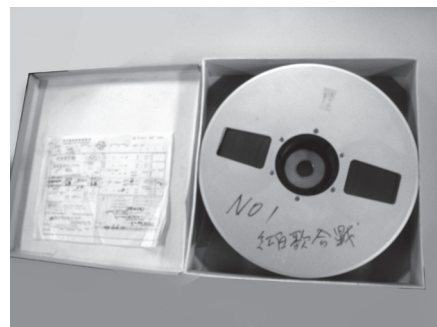
巨大なソニー製の 2 インチテープのケースはボール紙できており 46 年の歳月と共にボロボロになっていた。奇しくも筆者が生まれた年の紅白歌合戦であった。【写真 1】

中に同封されていた作業表には収録時の詳しいデータが書き込まれており、1 巻が 1 時間テープであること、2 台の VTR でリレーしながら収録したこと等がわかった。【写真 2】

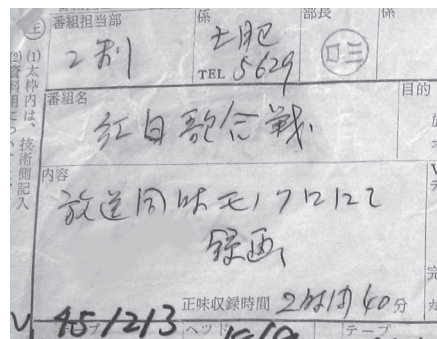
そして作業表には、ハッキリと「放送同時モノクロにて録画」と書かれており、NHK 秋田氏も私も中身



【写真 1】 2 インチテープのケース



【写真 2】 テープと作業表 (左)

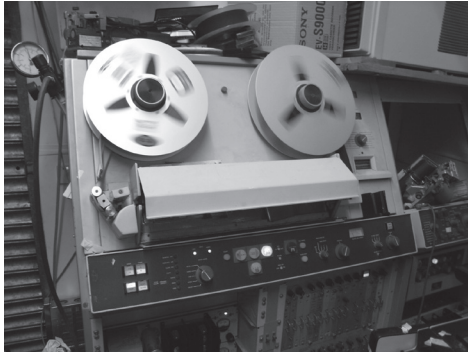


【写真 3】 モノクロにて録画と記されている

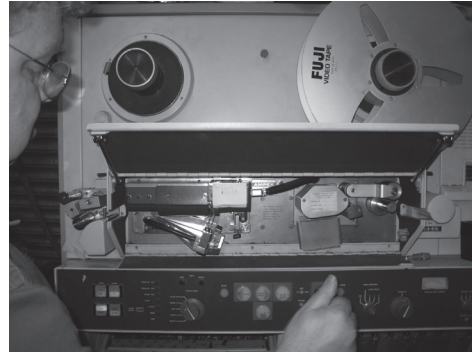
は白黒であろうと信じて疑わなかった。【写真 3】

こうやま・たかひこ レトロエンタープライズ代表取締役、  
当協会会員

弊社では 2 インチテープ作業はイギリス・ロンドンに  
設置したダビングスタジオで行っている。【写真 4】



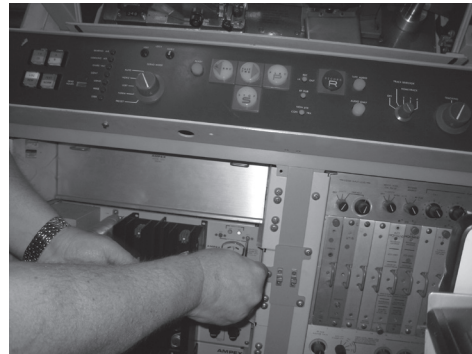
【写真4】 ロンドンのダビングスタジオ



【写真6】 作業開始



【写真5】 スタジオのスタッフ



【写真7】 ローバンド基盤への差し替え

理由はイギリスではBBC払い下げの2インチVTRがいまだに健在であり、部品の供給も可能であるためである。日本での運用を模索したが大きさが軽自動車1台分もあるため日本への移送・保管は現実的ではなかった。イギリスはPAL方式の国ではあるが、同じ英語圏のアメリカとの番組交換が多いためNTSC機材も豊富に揃っている。筆者のかつての職場が英国を本社とするロイター通信社テレビ部門であったため、元同僚（BBC VTR 部署出身）たちの協力で実現したものである。【写真5】

#### ◆テープを携えてロンドンまで～重い！◆

通常は美術品に準ずる扱いで国際宅急便を使ってイギリスまでテープを送っているが、今回は国民的行事の大切な記録テープということで、筆者自身がテープを携えてイギリスまで渡ることとなった。万が一のことを考え、肌身離さずテープを運んだのだが1巻あたり10キロ近いテープ3巻はさすがに重かった。無事イギリスに到着し、作業開始となった。【写真6】

さっそくテープを機械にかけたが、途中で止まってしまううまく走行しない。いわゆる「スティッキーシンドローム（粘着現象）」が起きていた。つまりテープのベース面に磁性体を貼り付けていた接着剤（のり）の部分が経年変化で磁性体を通り越して表面に出

てしまっている現象で古い磁気テープにはよくある現象である。昔は弊社としても打つ手がなかったのだが、たまたま当時イギリスのVTR技術者に相談すると「Just bake it!」（こんがり焼けばいいのさ）との答え。つまり専用に作られたオープンでゆっくり時間をかけて加熱することによって、この現象を改善することができるのだ。ロンドンには「テープ焼き屋さん」なる商売が存在し、注文に応じてテープをこんがり焼いてくれるのだ。（現在では東京の弊社でも可能となっている）

しかし問題はこれだけではなく、さらに大きな関門が待ちかまえていた。再生してみるとそれらしい映像は出るが、正しい映像として出てこない。何度トライしても、どう調整しても直す事ができない。それは晩年の2インチVTRは「ハイバンド」という方式で収録されていたのだが、このテープはVTR初期の規格「ローバンド」で収録されていたためであった。弊社の所有の2インチ機材アンボックスVT-2000はこの「ハイ・ロー」切り替えは基板の差し替えで対応できるとされているが、実際にはローバンド用基板は使用頻度が非常に低かったため、市場でほとんど出回っていなかったのだ。【写真7】

イギリス中を探し回ると王立のアーカイブセンターとロンドン市内のダビングスタジオの2箇所のみロー

バンド基板を所有していることがわかった。この双方に連絡を取り、基板を貸してもらいたい旨の手紙を送ったのだが、前者の王立のアーカイブセンターは公的な機関ということもあり全く相手にしてもらえず、やっとの思いで後者のロンドン市内のダビングスタジオが1日くらいという形でレンタルしてもらえなくなった。

#### ◆アーカイブ史上 久々の大発掘◆

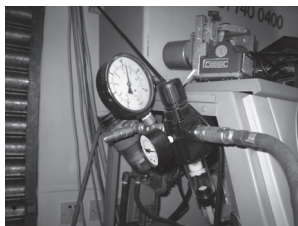
こうして、再びテープはVTRにセットされた。

そして、おそろおそろ電源を入れる。【写真8】すると2インチVTR特有の飛行機のジェットエンジンのようなヒュー、ゴーという駆動音がうなり出す。実は2インチVTRはコンプレッサーを同時に回して空気力でヘッドにテープを吸い付けているのだ。【写真9、10】

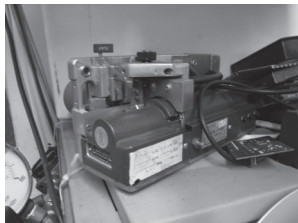
【写真8】



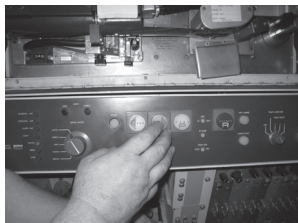
【写真9】



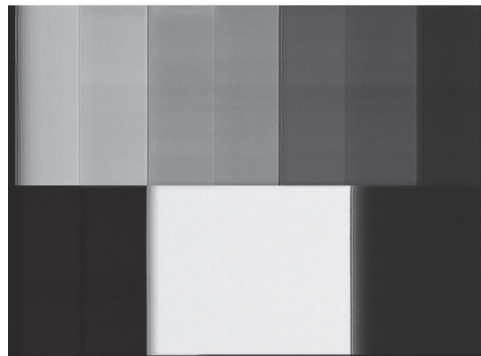
【写真10】



【写真11】



回転が安定したのを見計らって巨大な「PLAY」ボタンを「ガチャン」と押す。【写真11】すると約5センチというほとんどガムテープの幅の巨大テープを巻いたリールが蒸気機関車の車輪のように重く、ゆっく



【写真12】 鮮やかなカラーバーが現れた



【写真13】 カラー映像が映し出された

りと回り出す。イギリス人技術者と共にモニター画面に注目する。すると突然 1kHz のトーンが轟き、同時に鮮やかなカラーバーが現れた。現代のカラーバーと遜色ない色と鮮やかさだ。私が生まれた年に収録されたものだと思うと鳥肌が立った。【写真12】

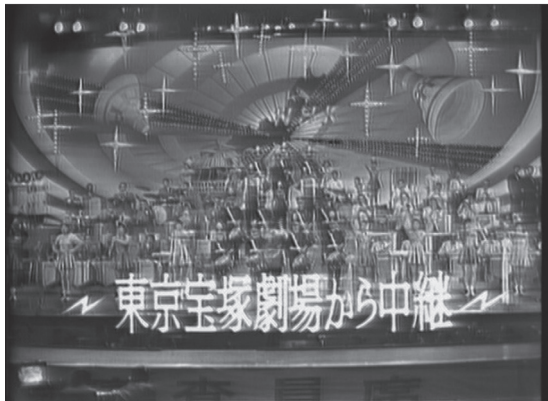
しかし疑問が湧いた「待てよ？テープに同封された作業表にはハッキリと「白黒」と書いてあったはずだ。なぜカラーバーが出るのだろうか？？」

そう考えている間もなく、オンエア2分前のオーケストラの映像が映し出された。まぎれもないカラー映像である。なんとこのテープは実はカラー収録だったのだ。【写真13】

しかもこのテープは、オンエア同録ではなく放送の前や後まで収録されたものであった。おそらく宝塚劇場からの中継ラインを収録したものであろう。【写真14】

すぐさま東京のNHK秋田氏の元へメールを送り、全編収録のカラー版であることを伝えた。するとすぐに「アーカイブ史上 久々の大発掘」といううれしい返信が来た。

番組はオーケストラのシンバルを合図に番組が始まり、審査員を担当された松下幸之助氏や初出演の都は



【写真 14】宝塚劇場からの中継ライン収録映像



【写真 15】なつかしい映像が映し出された

るみ、この年に紫綬褒章を受賞した東海林太郎などなつかしい映像を鮮やかに映し出した。【写真 15】

#### ◆完成原版を手に飛行機へ◆

万事めでたしと思われた矢先、映像が突然とぎれた。

よく見るとテープが切れている。さらによく見るとセロテープのようなテープが剥がれてテープが切れている。どうやら収録後にスプライシングテープで編集を行った箇所ようだ。現代では笑い話だが、当時のVTR編集はハサミとテープでつないでいたのである。当時テープ切断・テープ接合は顕微鏡を覗きながらの精度を要する作業で、かなりの熟練が必要だったと聞く。

この接合箇所が46年の歳月を経て、テープ接合箇所が劣化し、剥がれて切断してしまったのである。

しかも1箇所ではなく60箇所近くも切断していたのである。当時のスプライサー（接合機）はもうどこにもなく、慎重に1つ1つを可能な限り正確につなぎ合わせ、元通りの順番でつないでいくしかなかった。

接合箇所は画像が乱れる箇所もあるがそのまま収録して、あとで電子的に「つまむ」という手法で切り抜けた。

また収録後46年経っているためかテープに記録された磁気の力が弱くなっていて、ザラついた画面となっていた。そのため最新のデジタルノイズリデューサーを使い、なめらかな画像へと変換することができた。

そしてやっとの思いで出来上がった完成原版を手に飛行機へと乗り込み、一路日本を目指したのであった。

#### ◆帰国して試写◆

数日後、完成原版を携えた筆者の姿は再び渋谷のNHKにあった。

この日を心待ちにしてくださっていた秋田氏はエンターテイメント番組部の須藤氏を伴い、テープの試写準備をしてくださっていた。

HDカムに転写された完成原版を試写室のデッキに入れる。秋田氏、須藤氏の他にもまわりには方々が興味津々のまなざしでモニター画面を見つめている。

ゆっくりとPLAYボタンを押す。するとまるで昨年収録したかのような46年前のものとは思えない鮮やかなカラー映像が試写室のHDモニターに映し出されたのであった。一同歓声に湧いた。

今後川口のNHKアーカイブスでもこの番組を視聴できるようになるということなので、ご興味のある方は足を運んでみてはいかがでしょうか？

弊社ではVTR関係のアーカイブはもとより、テレビを中心としたフィルム関係のアーカイブ作業も積極的に行っている。またオーディオ関係にも力を入れており、戦中・戦後頃のワイヤーレコーダーや昭和20年代に使われた中心円から記録していく録音型レコード盤等の珍しい媒体のアーカイブも機器を新たに製作して作業を可能としている。媒体が朽ち果てる前にデジタル化、アーカイブ化の際はご一報いただきたい。

[www.retro8.com](http://www.retro8.com)

◇

◇